

シリーズ 水辺の鳥たち

◆サンコウチョウ

鳴き声が「ツキ（月）ヒ（日）ホシ（星）ホイ
ホイホイ」と聞こえることから「三光鳥」と呼
ばれるそうです。写真は雌で、雄は体長の三倍
くらいの長い美しい尾を持っています。

サンコウチョウは南からの渡り鳥で、日本で
杉林の薄暗い場所に巣を作り子育てをします。
写真は、南に帰る途中でしょうか、白子川に立
ち寄り、源流のマルバヤナギで数時間、羽を休
めていました。（2019 9/25撮影：水野勉）



2021年9月 第63号
「白子川源流・水辺の会」会報紙

川遊びを楽しもう！



豊かな川とは、いろい
ろな種類の生き物がた
くさんいる美しい景観
の川だと思いますが、
それ以上に、人の心に
刻まれる人と川の思い
出の履歴こそが川の豊
かさを象徴するもので
はないでしょうか。水辺の会では、そのような心を豊かに
する川づくりをしていきたいと願っています。

親子や友達と川遊びをした経験はふるさとの大事な思
い出になるでしょう。ザリガニ捕り、水辺の生き物探し、水
辺の植物観察会など、川に入って楽しむイベントを開催
していこうと思います。

しかし、白子川は小さな川なので、人間が川に入ること
で思わぬ影響を受けてしまうこともあります。川環境を

守りながら川遊びの活動を行うとともに、豊かでダメージ
に強い川づくりを目指したいと考えます。

現在の白子川は外来種の侵入により在来種が駆逐され、
外来種が占有する状態になりつつあります。また、宅
地開発などによる雨水の浸透域の減少や大量の地下水
の揚水によって湧水が減っています。そのような状況を
踏まえ、生き物のバランスを考えながら生態系を守る活
動や、自然環境を守る街づくりの働きかけを行って、川
遊びのできる川づくりを進めていきたいと思っています。

今年度の川遊びは、
・水生植物観察会
・ザリガニ捕り大会
・生き物の棲みやすい川づくり
を予定しています。

(岡崎一成)



画・林原和雄



NPO法人 空堀川に清流を取り戻す会

友保邦弘

●白子川が流れ込む新河岸川流域では、当会と同じように川の活動に取り組んでいる様々な会があります。

今号から、会の紹介やその取り組み・課題を、リレーで紹介していただきます。



第18回川まつり



★HP=<https://www.karaborigawa2.org>
★ブログ=karabori.exblog.jp

(ともやすくにひろ・会代表)

当会は、長い間都内の中小河川の中でワーストワンとして「汚い・臭い」の汚名をもらっていた空堀川に清流を取り戻したいという強い願いから、東京都環境学習リーダー3期生を修めた小林寛治氏が中心となって1996年(平成8年)に立ち上げ、2000年(平成12年)に、活動を強化・進展させるためにNPO法人格を取得した環境保護団体です。

河川改修がほぼ完了した現在の空堀川は、その名前が示す通り、雨が降らなければカラカラ、大雨で一気に濁流となって稀に下流域で氾濫するという典型的な「水無川」です。普段は上流域のみ大手飲料メーカーの高度処理した工場排水が流れているという、川とは名ばかりの、蛇行していた川から直線化した「排水溝」の体をなしている都市河川です。従って、河道内の植生は単調で、また魚や水棲生物なども種類が多いとは言えません。

当会では水流確保のためにこれまで様々な活動をしてまいりましたが、未だ道半ばどころか年々流水が減少している有様です。それでもこの川を東村山市の宝物にすべく、川の清掃、緑化活動、野外体験学習、川まつりなどを通じて次の世代をにう子供達に豊かな自然環境を提供し「みどり溢れ、暮らし輝く街づくり」に貢献すべく頑張っております。しかし近年では会員の高齢化が進み、また益々予断を許さないコロナ禍の状況によって活動が大幅に制限されているのが現状です。一日も早く平穏な日々を取り戻したいものです。

定例活動報告<4月~7月>

日時 <調査開始時間>	調査項目	天気	気温 (°C)	水温 (°C)	水深 (cm)	pH	COD (mg/L)	源流部 流速 (km/h)	源流部 流量 (L/秒)	主な活動 特記事項	参加 人数 (名)	収集ゴミ 90L (袋)
	調査地点											
2021年7月25日 <13:40~> 自主参加	源流部	晴	33	18.7	15	欠	2	0.29	100.8	・アメリカザリガニを180匹捕獲し、観察を行った ・会員以外の参加者数名で護岸上の花壇の草取りを実施 ・木道に張ったテントが好評!	21	15
	井頭橋			19.0	11	欠	2					
	井頭~火の橋中間			19.2	26	欠	2					

・CODとは、水の汚れを示す指標で、数値が大きいくほど汚れている。当会では、低濃度簡易測定キットで指標を判定している。2は最低値できれいな水、4~8は少し汚れている、8以上は汚れている。

・pHとは、酸性とアルカリ性を示す指数で、pH7が中性、7より大きいとアルカリ性、小さいと酸性。

・表の(ー)は、水がなくて測定不能、(欠)は測定機器の不具合等で欠測の意。

●新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、自主参加としたため、人手不足により水質調査は4月~6月の間、放射線測定は4月~7月の間実施せず。この間の源流部の模様について、以下写真で報告します。



水抜きパイプからゴボゴボと噴き出す湧水



源流部を覆い尽くすウキヤガラの種取り作業



「川の学校」が始まりますよ♪



下水吐け口、赤土色の水は近くの工事から?



～次世代への学習支援～



水辺の会では、毎年ゴールデンウィーク明けから学習支援活動が本格化します。

今年は、21回目を迎えた大南小4年生への「川体験&白子川学習」に加え、新たに大北小3年生へのオンライン学習、私立富士見中2年生への地域の課題解決への探究学習、生活クラブ生協主催「白子川で水質調査&ごみ拾い～親子で自由研究～」への支援に取り組みました。

富士見中学校では、今年度「住み続け

られるまちづくり<SDGs目標>のために私たちが出来ることは何か”をテーマに、『2030年のねりま』を創造する探究学習に取り組んでおり、その支援の一環として区の協働推進課を通じ、「環境・高齢者福祉・防災・子育て」分野で活動中の団体に対し講演要請があったもの。

湧水を源流とする白子川は地域の宝であり、まちづくりは自慢できるものに向き合うことであると伝えました。(永井薫)



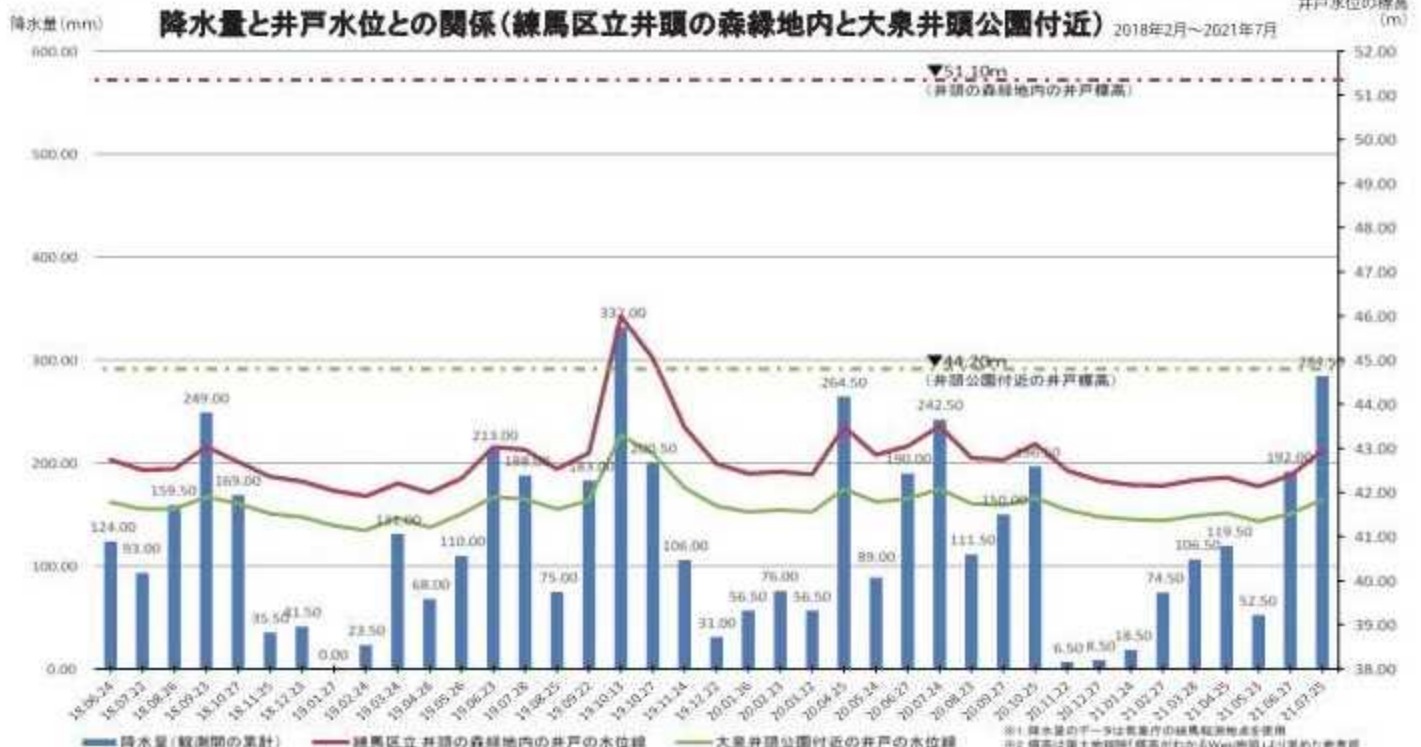
富士見中学での講演(写真上)と生活クラブ生協との白子川水質調査(下)

Welcome!

【新入会員自己紹介】植原 正幸さん

板橋生まれ、学校卒業後は、就職先の転勤で仙台や青森、札幌、広島、名古屋などで23年間、地方の自然を身近に感じながら生活していました。その後、東京に戻ってきたとき自然が残っている大泉学園がいいなあと、14年前に引っ越してきました。その間、会社人間だったので地域との関係が薄く、何かせねば…と思っていた頃にこの水辺の会の活動を知り、今年1月に入会の申込みをしました。最初の活動がアメリカザリガニの捕獲で懐かしさと新鮮さが入り交じり興奮しました(笑)。

自然豊かな白子川源流は多くの人々に愛されているのを感じています。その環境保全に20年もの間、活動されてきた水辺の会に敬意を表すとともに、これから新会員として微力ながら頑張る参りますのでよろしくお願い致します。



★ 第21回定期総会
(書面決議)のご報告

昨年に引き続き、新型コロナ感染拡大により書面決議とした総会でしたが、返送ハガキの結果、議案が承認可決されました。顔を見て語り合えないのは本当に残念でしたが、多くのメッセージをいただきました。活動への賛同・感謝・激励、後継者育成の喚起、グッズの提案、取り組みへの提案などなど、貴重なご意見を今後の活動に生かしていきたいと思えます。

ご協力ありがとうございました。



今春、源流で巣立った子たちが勢揃い、火の橋上流で枝に並んだところをキャッチした7月13日の写真です(先頭は親)。

4月から8月にかけて3回もの子育てで、幼鳥は8羽確認されていますが、この時は5羽でした。(撮影:水野勉)

6月~9月
活動記録

- 6/1(火)、9(水)、11(金) 大南小4年生の
白子川体験
- 6(日) 全国一斉水質調査
- 12(土) web“源流の森”研究会
- 20(日) 第21回定期総会(コロナ禍による
書面決議)、WE LOVE 白子川の会
- 21(月) 大南小4年生白子川授業
- 25(金) 大泉北小web白子川紹介授業
- 26(土) リアル運営会議
- 27(日) 定例活動(自主参加)“川を楽
しむコーナー”併設/汚水逆流
緩和策として井頭堰を下水吐け
口近くに移設

- 7/10(土) web“源流の森”研究会
- 18(日) WE LOVE 白子川の会
- 24(土) web運営会議
- 25(日) 定例活動(自主参加)“川を楽
しむコーナー”併設/生活クラブ
水質調査の受け入れ

- 8/21(土) web運営会議
- 22(日) 定例活動(自主参加)“川を楽
しむコーナー”併設
- 9/11(土) web“源流の森”研究会
- 19(日) WE LOVE 白子川の会
- 25(土) web運営会議
- 26(日) 定例活動(自主参加)“川を楽
しむコーナー”併設

10月~1月
これからの主な活動予定

*「白子川源流まつり」は新型コロナの感染状況により今後の実施形態を決定します。
*毎月第3日曜日に WE LOVE 白子川の会を、
毎月第4日曜日に定例活動“川を楽しむコーナー”併設を、
予定しています。
(定例活動は井頭公園で13時半から。どなたでも参加できますが、新型コロナの感染状況により、自粛または縮小する場合があります。)

★白子川ミュージアムについて

白子川は都市河川で生き物はほとんどいないと思われがちですが、実はたくさんの生き物が生息しています。全て、白子川で確認された生き物です。ぜひ右のQRコードまたは下記URLでお楽しみください。
<https://shirakogawagenryu-web.jimdosite.com>



編集後記

大泉学園通りの桜並木の桜の植え替えが進んでいる。1970年前後に280本を超える桜が植樹されて半世紀。少しずつ寿命を迎え危険木と判断され切り倒された桜は桜並木全体の3割に及ぶと聞く。区は2015年から植替事業を開始、現在70本近くの桜が世代交代したという。翻って、我が源流部。当会HPのトップページを飾る白子川沿いの素晴らしい桜並木は、2018年3月の映像である。が、悲しいかな既に“今は昔”。この3年で台風による倒木と老木化による伐採で公園内の桜はほぼ半減、世代交代は1本に止まる。区は“公園整備計画があるから新たな植樹はしないという考えはない”というが、今夏の蝉時雨は心なしか寂しい。「後継樹植樹」の課題は重い。(永井)

発行 白子川源流・水辺の会
<https://shirakogawa.tokyo/>
編集 小川 郁/喜多 浩子/高宮 信三郎/
永井 薫/日高 美南子/松岡 直子
題字 宮本 沙海
発行部数 1,200部
共同代表 岡崎 一成 / 菅沢 博
事務局 練馬区南大泉1-10-5
03-3923-8430 菅沢 博



※この会報は年3回発行しています